



大渡 啓介 教授が秋田大学革新材料研究センターの セミナーで招待講演

【概要】

令和元年12月19日(木)に、秋田大学鉱業博物館において開催された「令和元年度革新材料研究センター セミナー」において、理工学部化学部門の大渡 啓介 教授が招待講演を行いました。

【本文】

令和元年12月19日(木)に秋田大学鉱業博物館で開催された「令和元年度 革新材料研究センター セミナー」において、理工学部化学部門の大渡 啓介 教授が招待講演を行いました。

革新材料研究センターは、秋田大学の強みである「材料・素材」をもとに新しい価値を創出し、エレクトロモビリティやエネルギーの高度利用技術を「革新的な材料・素材」から貢献することを目的とし、秋田大学大学院理工学研究科附属の研究センターとして平成30年度からスタートしています。今回のセミナーでは、3件の招待講演が行われました。1件目は秋田大学材料理工学コースの教員による「鑄造組織シミュレーションへのデータサイエンスの適用」、2件目が大渡教授による「金属抽出におけるホスト化合物の構造効果」、3件目は名古屋大学材料デザイン工学専攻の教員による「材料設計計算工学へのデータサイエンスの適用」でした。

大渡教授は、長きにわたって金属回収を行ってきた知見を生かし、前後2件のデータサイエンスを活用した講演とは趣きが異なった、レアメタルの回収技術に関する学術的に最先端の基礎研究成果について講演を行いました。秋田は日本でも屈指の金属や石油資源に恵まれた地域であり、秋田大学の鉱業博物館は3階建てで、日本で最も多くの鉱石を保有し、研究価値の高い鉱物資源も有しているということで、大渡 教授は、このような機会をこの場で得られたことをたいへん光栄に感じているとのことでした。